

神奈川歯科大学・被災者支援プロジェクト

～ 第2回 本格支援までの情報収集および現地視察等・気仙沼市 ～

報告者：窪田光慶（矯正科）

【日程】

平成23年5月2日～5月5日

【参加者】4名（五十音順）

鎌田政宣（歯科医師・附属病院 インプラント科）

窪田光慶（歯科医師・附属病院 矯正科）

平田宗善（歯科医師・KDC-SAS）

平田洋子（現地コーディネーター）

【活動内容】気仙沼市を中心とした歯科医療の実施・洗口剤等の寄贈及び現地視察等

- 気仙沼市本吉町小泉地区：
ポータブルの診療機器等を持参し、歯科医療活動
養護学校での歯科検診と歯科指導
- 気仙沼市歯科医師会、唐桑半島の歯科医院を表敬訪問
神奈川歯科大学理事長からの親書の進呈
- 気仙沼市唐桑の避難所と災害センター：
洗口剤、義歯ケース、義歯ブラシなどを寄贈
- 陸中高田や気仙沼港の被災状況の視察
- 気仙沼市役所保健福祉部健康増進課を訪問、情報交換
- 南三陸、石巻、松島、塩釜など被災地を視察

《 第1日目：5/2 》

東京駅集合、東北新幹線で仙台へ、仙台から車両（レンタカー）で古川のホテルへ。

《 第2日目：5/3 》



古川を宿营地とし、活動の中心となる気仙沼まで片道約 110 キロを毎日往復。

気仙沼から約 16 キロ南に位置する本吉町小泉地区の避難センターに到着。ここは太平洋に面し、南三陸金華山国定公園の一部でハマナスがきれいな町として知られていたそうです。しかし現在ほとんどの建物は津波により土台ごと流され、道路や鉄道も破壊されており、悲惨な光景が眼下に広がっていました。避難所は、高台にある町役場の建物で、約 70 名の避難民の方が生活をされていました。

水道、電気、ガスなどが現在も不通で、水を運んで生活に使用している大変不便な状態でした。

事前に状況を把握できたので、用意した発電機（事前に宅急便で現地に送付）を用い、ポータブルユニットや技工用エンジンを使用し診療を行いました。

当日は快晴で GW を利用したボランティアが多数活動しており、被災者の多くが自宅のがれき等の処理に同伴し、残念ながら日中は避難所に被災者が少ないのが現状でした。



診療時間：午前9時から午後2時まで（約5時間）

診療内容：（計7名）

- ・ 仮封処置2名。
- ・ 義歯調整と清掃2名。
- ・ 口腔内診査と噛み合わせの相談1名。
- ・ 顎関節症の診査・アドバイス1名。
- ・ 動揺歯の処置と歯石除去1名。



避難センターでの治療スタッフ：石井先生（本院：障害者歯科）も飛び入り参加、地元の看護学校の学生さんがお手伝いしてくれました。

処置した高齢者の義歯は食物残渣と歯石が強くこびりついており、誤嚥性肺炎の原因として大変危険な状態でした。専用ブラシとエンジン（歯科専用の研磨器材）での清掃で見違えるようにきれいになった義歯を見て、他の被災者にもぜひ薦めたいと言われて足が悪いのをおして避難所周辺を探して頂きました。震災から2か月経ても不便な避難所での生活で、歯科医院へも通院出来ない方への口腔ケアや指導などの被災地での歯科支援の重要性をあらためて痛感させられました。



診療終了後、養護学校での歯科検診と歯科指導を行い、初日の活動を終了し、宿営地に帰着。

《 第 3 日 目 : 5 / 4 》

気仙沼の歯科医師会、唐桑半島の歯科医師の先生方を表敬訪問し、大学からの親書を手渡し、今後の大学としての支援活動の目的を説明。

唐桑の避難所と災害センターを訪問。現地の情報収集とともに洗口剤、義歯ケース、義歯ブラシなどを寄贈し、口腔ケアに役立てもらうように依頼。

気仙沼では地元の新聞の取材を受け、今回と今後の神奈川歯科大学の支援活動について説明。

被災地の視察：陸中高田や気仙沼港を訪れ、被災状況の記録。

《 第 4 日 目 : 5 / 5 》

気仙沼市役所保健福祉部健康増進課を訪問。大学としての支援活動の目的と今後の活動を説明し、現地のニーズと医療支援の現状に関して情報を交換。

ここには全国からの歯科医師会や開業医のグループが登録して活動を行っていました。その後、南三陸、石巻、松島、塩釜など被災地を視察しながら仙台へ、その後新幹線で東京へ戻り、今回の視察と被災地の治療の日程を終了しました。



気仙沼港：津波に打ち上げられた大型漁船



被災した県立高田病院(陸前高田)：4階まで津波